

第3回

説明文(3)

話題と要点
自分を取り巻く世界

慣用句②



次の文章を読んで、後の問題を考えましょう。

- ① 多くの昆虫が生活している田んぼとは、どんな場所かについてお話ししましょう。
- ② 人間にとってはイネを作る場所である田んぼで、四季を通して、昆虫たちはどんなふうに生きているのでしょうか。②は春、水を張った田んぼには、さまざまな昆虫が現れます。③たとえば、乾いた田んぼで、卵の姿で冬越ししたアカトンボやイナゴが孵化します。④しかし、田んぼに水があるのは夏までです。⑤その短い期間に、田んぼやその周辺で生活する昆虫がたくさんいます。⑥イネを収穫する秋を過ぎて冬になると、田んぼには水はなくなり、乾燥した状態になり、昆虫の姿はあまり見られません。⑦しかし、一年を通して観察すると、田んぼを生活の場としている昆虫はとてたくさんいることがわかります。
- ③ 田んぼは、昆虫がたくさん見られる湿地の時期と昆虫があまり見られない乾いた土地の時期をもつ場所であるということができるといえます。

15

10

5

基本例題

1

この文章は、何について書かれていますか。次の文の□にあてはまる言葉を文章中からぬき出して答えなさい。

- が生活する □ 2 □ について

◎ 何について書かれているか、というときの「何」にあ

たることから「話題」といいます。

この問題では、文章全体の話題が問われています。

「話題」を読み取るには、

- (1) 「……について」という表現

- (2) 「問いかけ」の文

- (3) くり返して出てくる重要語句

という基本的な読み方があります。

(□に言葉をあてはめ、内容を整理しましょう。)

文章全体の話題は、多くの場合、文章のはじめの方に

書かれています。①段落に注目すると、「ア□□□とは、

どんな場所かについて」という表現があります(→①②)。

に注目する！

また、文章全体を通して、「イ□□□□」「ウ□□□□」の二語がくり返し登場しています(↓③)。

基本例題 2

②段落の要点を三十字以内でまとめなさい。

◎ **形式段落の中心的なまとめにあたる内容を要点**といいます。要点を読み取るには、一文一文の役割を考えながら読み、**まとめの役割を果たしている文を探します。**

形式段落内の文の役割

- 1 中心的な役割を果たす文
 - (1) 形式段落の話題を示す。
 - (2) 形式段落の中心的なまとめ**＝要点(中心文)**。
- 2 くわしく説明する役割をはたす文
 - (1) 具体例を示す。
 - (2) 言い換えて詳しく説明する。
 - (3) 原因・理由・根拠を示す。
 - (4) 対照的なことと比べて説明する。
 - (5) 説明をつけ加えたり、補足したりする。

②段落の各文について、その内容と形式段落内での役割を考えます。(□に言葉をあてはめ、内容を整理しましょう。)

①…ア□□□□でイ□□□□たちはどんなふうに生きているのか。

(問いかける形で形式段落の話題を示す)



②③…春・水を張った田んぼの昆虫たち
 ④⑤…夏・ウ□□□□田んぼの昆虫たち
 ⑥…冬・水のない田んぼに昆虫は少ない
 ⑦…一年を通して、田んぼをエ□□□□としている昆虫はたくさんいる。
 (形式段落のまとめ**＝要点**)

②段落は①(形式段落の話題) ↓ ②～⑥(具体例を挙げて説明) ↓ ⑦(形式段落の要点) という組み立てになっています。

文章全体としては、①段落の**文章全体の話題**について、②段落で**具体例**を挙げて説明し、③段落で「水を張った田んぼ」**＝湿地**、「水の少ない田んぼ」**＝乾いた土地**、と言いついて全体をまとめています。

練習問題



◆ 次の文章をしっかりと音読してから、後の問いに答えなさい。

①～⑦は形式段落の番号を示します。

① 牛乳は、昔は朝、牛乳配達の人が配ってくれたガラスビンに入ったものを飲んでいました。飲んで空になったビン置いておくと、つぎの日にまた新しい牛乳と取り替えてビンを回収していく、そういうシステムがありました。しかし、都市ではかなり昔に牛乳を配達するといふシステムはなくなってしまいました。紙パック入りの牛乳が普及し、それがふつうになりました。

② 牛乳ビンは、一つのビンを洗って何十回も使えますから、ごみにはなりません。紙パックは一度使えばそのままごみになります。牛乳ビンが三〇回使われたとすると、紙パックになることでごみが三〇倍増えてしまうというわけです。

③ ガラスビンも急に減ってしまいました。酒や醤油の容器として使われていた一升ビンや清涼飲料水などの容器として使われていた一リットルビンは、酒屋などにもつていくと*有価で引き取ってくれるデポジット(預り金)制度が機能していました。ところが今では、紙パックやペットボトルなどの使い捨て容器にかわっています。

④ どうしてこういうことになるのでしょうか。メーカーやスーパーなどの生産者側が一方的に消費者に押しつけてきたからでしょうか。確かにそういう面もありますが、同時に私たち消費者が無意識のうちにせよ、求めた結果でもあるのです。たとえば買物に出かけて、野菜や肉を買い、最後にジュースを買おうとします。ガラスビン入りのものと、紙パック入りのものが並べて置いてあったとすると、紙パックのほうを選ぶ人が多いはず

です。紙のほうが軽いと、とつさに判断しているからです。一リットルのジュースの中身の重さは一キログラムです。入れもののビンの重さも一キログラムです。これに対して、紙パックは一〇グラム程度でほとんど重さを無視できます。紙パックジュースのほうが重さが半分くらいというわけです。重い荷物をさげて家まで持ち帰らなければならぬとすると、軽いほうを選ぶのは人情でしょう。

⑤ また、スーパーマーケットで買う果物や野菜、肉や魚は発泡スチロールのトレイにのせられ、さらにプラスチックのフィルムでおおわれています。それらをまたプラスチックのレジ袋に入れてもって帰ることになります。町の八百屋や魚屋では、野菜や魚はその場で包みま

すから、包装はスーパーマーケットの三分の一ですみます。⑥ スーパーでは、消費者が自分で品物を選んで、それを手で運んでレジのところまでもっていきますから、たし

かに衛生のためにもちゃんどパックしておく必要があるのですが、^②消費者がセルフサービスで買っていくので、単位売り場面積あたりの店員数がひじょうに少なくてすみませす。その分、対面販売の小売店より品物が安いだろうとなんとなく思っていました。ところが、NHKが京都大学の協力をえて、スーパーマーケットと小売店で同じ買い物をする比較実験をしたことがありませす。その結果、容器包装の量は、スーパーのほうが重さで四割、容積で三〜五倍も多いという予想どおりのものでしたが、買い物の値段は、小売店が三三〇四円であるのに対し、スーパーは四〇八〇円と、スーパーのほうが七七六円も高いという結果でした。

^⑦では、なぜ値段の高いスーパーのほうがはやっているのでしょうか。この調査でもう一つ比較したものがあります。買い物時間です。スーパーで買うと三分の一の時間で用足しができています。スーパーマーケットへ行けば、肉も野菜もジュースも、そして石けんなどの日用雑貨も、すべてのものを一カ所でまとめて買うことができますからです。買い物で節約できた時間を七七六円で買ったことになるわけです。買い物時間を節約できることがスーパーマーケットがはやる大きな理由と思われるますが、いずれにせよ、^④私たちは今の社会の仕組みのなかで気がつかないうちにごみを増やすような生活をして

60

55

50

45

いるといつていいでしょう。

(八太昭道「新版 ぐみから地球を考える」より)

*有価：価値があること。ここでは「決められた値段」という意味。

問一 この文章全体の話題として最も適切なものを次から

選び、記号で答えなさい。

- ア なぜ使い捨て容器が増えたのか。
- イ なぜ牛乳の宅配はなくなったのか。
- ウ なぜガラスビンの容器は減ったのか。
- エ なぜごみは増えてしまったのか。

問二 1 ④段落の話題として最も適切なものを次から選

び、記号で答えなさい。

- ア ガラスビンと引き換えに預り金を返すデポジット制度がかって機能していたのはなぜか。
 - イ 容器をガラスビンから紙パックに変えてしまうとごみの量はどのくらい増えてしまうのか。
 - ウ 飲料などの容器の多くがガラスビンから紙パックやペットボトルなどにかわったのはなぜか。
 - エ 毎朝配達される牛乳を飲むというこの家でも当たり前の日課はどうしてなくなったのか。
- 2 1の「話題(疑問)」について、筆者はその理由をどのように考えていますか。「生産者側」「消費者側」という言葉を使って六十文字以内で答えなさい。

問三 ——— 線①「人情でしよう」という表現からわかる筆者の考えとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 気持ちがよくわかる イ どうにも納得できない
ウ つい同情してしまう エ あまりにも情けない

問四 ⑤段落で述べられている内容をまとめたものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 八百屋や魚屋では品物をその場で包んで客に渡すようにしている。
イ スーパーの品物には八百屋や魚屋の約三倍もの包装がなされている。
ウ 八百屋や魚屋の品物にはスーパーの三分の一の包装しかされていない。
エ スーパーで買う品物は発泡スチロールのトレイにのせられている。

問五 ——— 線②「消費者が買っていく」とありますが、

- 1 スーパーでは「消費者がセルフサービスで買っていく」ことから、筆者が「予想」していたこととして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
ア 小売店の品物よりたくさんの包装がされている。
イ 肉でも魚でもまとめて買えるので便利になる。

ウ 対面販売の小売店よりも気をつかわずにすむ。

- エ 店員の数が少なくてすむので、品物が安くなる。
2 筆者の「予想」したことは実際どうでしたか。「す」という結果。」に続くように十字で答えなさい。

問六 ——— 線③「値段の高いスーパーのほうはやっている」理由を文章中の言葉を使って四十五字以内で答えなさい。

なさい。

問七 ——— 線④「私たちは生活をしている」とありますが、この部分を通じて筆者が述べようとしていることとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 便利な暮らしを続けていく方法を考えよう。
イ ごみのない社会を目指して工夫を重ねよう。
ウ 当然だと思っていた生活を見直してみよう。
エ 自分が出しているごみの量を調べてみよう。

応用 ——— 線「都市ではなくなりました」について。一時期、あまり見られなくなった「牛乳配達」ですが、最近では以前のようにガラスビンに入った牛乳を毎日宅配するサービスが復活しているようです。一度なくなった宅配が再び行われるようになった理由について、あなたの考えを述べなさい。

について、あなたの考えを述べなさい。

慣用句

②

◎ 今回は、「人の気持ちや様子をたとえる言葉を使った慣用句」、「動物や植物を使った慣用句」について学習します。『予習シリーズ漢字とことば 4年』137～139ページも参考にしながら、学習を進めましょう。

1 人の気持ちや様子をたとえる言葉を使った慣用句

- あいづちを打つ (相手の話や意見に調子を合わせる。)
- 青筋を立てる (腹を立て、かんかんに怒る。)
- 足元から鳥が立つ (突然身近に意外なことが起こる。)
- 味を占める (一度うまくいったので次も期待する。)
- 泡を食う (びっくりしてあわてる。)
- 息を凝らす (呼吸をおさえ、一つの事に注意を集中する。)
- 息を殺す (呼吸をおさえ、じっと動かずにいる。)
- 息を呑む (驚きや緊張などで、一瞬、呼吸を止める。)
- 一目置く (相手を自分よりすぐれた者として尊敬する。)
- 色を失う (驚きや恐れで顔色が青ざめる。)

かたずを呑む (息を凝らし、ことのなりゆきを見守る。)

気が置けない (親しい。遠慮する必要がない。)

気が利く (細かなところまでよく気がつく。)

気が気でない (ひどく心配で落ち着かない。)

気が済む (気がかりなことがかたづいてほっとする。)

気がとがめる (自分のしたことを後ろめたく思う。)

気が滅入る (考え込んで心が暗く落ち込む。)

気に入る (気持ちにかなう。好みに合う。)

気に障る (不快に思う。感情を害する。しゃくにさわる。)

気に病む (くよくよと心配して悩む。)

気を吐く (威勢のよい言葉を発し、意気盛んである様子。)

気を揉む (心配してあせる。やきもきする。)

しびれを切らす (待ち遠しくて、がまんできなくなる。)

精を出す (一生懸命に努力する。熱心に働く。)

途方に暮れる (どうしたらいいのかわからなくて困る。)

涙を呑む (くやしさをがまんする。)

苦虫をかみつぶしたよう (不愉快な気持ちがありありと表した表情のたとえ。)

二の句が継げない (あきれて次の言葉が出てこない。)

音を上げる (弱音をなく。降参する。まいってしまふ。)

2 動物や植物を使った慣用句

馬が合う (気が合って、一緒に行動しやすい。)

生き馬の目を抜く (すばしこくて油断がならない。)

しり馬に乗る (よく考えず、軽はずみに人に従う。)

犬と猿の仲 (仲の悪いものたえ。犬猿の仲。)

犬の遠吠え (臆病者がかけてからいばりすることのたとえ。)

犬も食わぬ (相手にしないことのたとえ。)

雀の涙 (ごくわずかなものたえ。)

鶴の一声 (有力な人の一言がほかの意見より尊重される。)

飛ぶ鳥を落とす勢い (権力や勢力などがたいそう強いこと。)

猫も杓子も (だれもかれもみな。)

猫の手も借りたい (いそがしくて、人手が足りないこと。)

猫の額 (とてもせまいことのたとえ。)

猫の目 (めまぐるしく変わりやすいことのたとえ。)

猫をかぶる (本性をかくしておとなしくすること。)

借りてきた猫 (いつもと違い、遠慮しておとなしい様子。)

袋のねずみ (逃げ出すことができない状態のたとえ。)

虫が知らせる (何となく前もって心に感じる。予感がする。)

虫がいい (自分の都合ばかり考え、自分勝手に凶々しい。)

虫が好かない (何となく好きになれない。)

虫の息 (呼吸が弱々しくなって、今にも死にそうな状態。)

虫の居所が悪い (ちよつとしたことにもすぐ腹を立てる。)

羽をのばす (のびのびと自由にふるまう。)

青菜に塩 (すっかり元気をなくし、しおれる。)

芋を洗うよう (狭い所で大勢の人が押し合うように集まる様子。)

木で鼻をくくる (たいへん無愛想にもてなすことのたとえ。)

木に竹を接ぐ (筋道が通らない。前後の調和がとれない。)

竹を割ったよう (さっぱりしていて、まがったことの嫌いな性質。)

雨後の筍 (似たような物事が次々に発生することのたとえ。)

根にもつ (うらみを忘れないで、いつまでも持ち続ける。)

根も葉もない (何の根拠もない、全くでたらめなこと。)

根掘り葉掘り (細かいことを一つ一つ問いただすこと。)

根を下ろす (安定した位置を占める。定着する。)

花が咲く (時期が来て、盛んになる。にぎやかになる。)

花を持たす (相手を引き立てようと、勝ちや手柄をゆずる。)

花も実もある (外見が美しいだけでなく、内容も十分だ。)

高嶺の花 (自分のものにできない高貴・高価なもの。)

問一 次の□にあてはまる言葉を答え、下の()内の意味をもつ慣用句を完成させなさい。

目標時間 3分

- (1) □ を打つ (相手の話や意見に調子を合わせる。)
- (2) □ を置く (自分より優れている相手を尊敬する。)
- (3) □ を切らす (待ち遠しくて、がまんできなくなる。)
- (4) □ が継げない (あきれて次の言葉が出てこない。)
- (5) □ を上げる (弱音をはく。降参する。)
- (6) □ が合う (気が合って、一緒に行動しやすい。)
- (7) □ の涙 (ごくわずかなもののため。)
- (8) □ の額 (とてもせまいことのたとえ。)
- (9) □ が知らせる (何となく前もって心に感じる。)
- (10) □ に塩 (すっかり元気をなくし、しおれる。)
- (11) □ に竹を接ぐ (筋道の通らないことのたとえ。)
- (12) □ も葉もない (何の根拠もない、でたらめなこと。)
- (13) □ を食う (びっくりしてあわてる。)
- (14) □ を呑む (息を凝らし、このなりゆきを見守る。)
- (15) □ をかぶる (本性をかくしておとなしくする。)
- (16) □ に乗る (よく考えず、軽はずみに人に従う。)

問二 次の(1)～(5)の各組の□に共通して当てはまる漢字一字の言葉を答え、それぞれの慣用句を完成させなさい。

目標時間 3分

- (1) □ を凝らす・□ を殺す・□ を呑む
- (2) □ が利く・□ に障る・□ に病む
- (3) □ も食わぬ・□ の遠吠え・□ と猿の仲
- (4) □ がいい・□ が好かない・□ の息
- (5) □ が咲く・□ を持たす・高嶺の□

問三 次の各文の()にあてはまる慣用句を後から選

び、それぞれ記号で答えなさい。

目標時間 3分

- (1) 昨日は()友人たちと楽しく遊んだ。
- (2) ()ようなそっけない返事だ。
- (3) 社長の()で、新商品の発売が決まった。
- (4) 商売が繁盛して、()ようないそがしさだ。
- ア 木で鼻をくくる イ 鶴の一声
- ウ 猫の手も借りたい エ 根に持つ
- オ 気が置けない